

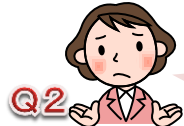
糸島市のコミュニティ・スクール

～参画と協働による教育の実現～

糸島市教育委員会

現在、社会や地域の様子が大きく変化しています。人々のつながりや支え合いが希薄化することは、子どもの規範意識や社会性の育ちにも影響を与えます。

子どもや地域が抱える課題を解決し、人々の心の拠り所となる学校づくり・地域づくりを進めるために、糸島市ではコミュニティ・スクールを推進します。



これまでも地域で学校を支援してきました。コミュニティ・スクールにすることで、どんなよいことがあるのですか？

Q2

コミュニティ・スクールの推進は、学校に対する支援強化だけに留まりません。学校・家庭・地域といった三者による学校づくり・地域づくりを目指しています。ですから、子ども、保護者、地域の人々、学校の教職員それぞれにとって魅力のある取組と成り得ます。

子どもにとっての魅力

- 子どもたちの学習や体験活動が充実します。
- 自己肯定感や他人を思いやる心が育ちます。
- 地域の担い手としての自覚が高まります。
- 防犯・防災等の対策によって安心・安全な生活ができます。

保護者にとっての魅力

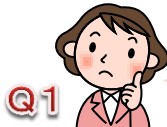
- 学校と保護者が連携した学校づくりが進められます。
- 学校や地域に対する理解が深まります。
- 地域の中で子どもたちが育てられているという安心感があります。
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。

教職員にとっての魅力

- 学校運営に対する地域や保護者の理解と協力が充実します。
- 地域人材や保護者の協力と連携による教育活動が充実します。

地域にとっての魅力

- 経験を生かすことで生きがいや自己有用感につながります。
- 学校を中心とした地域ネットワークが形成されます。
- 地域の防犯・防災体制が構築できます。



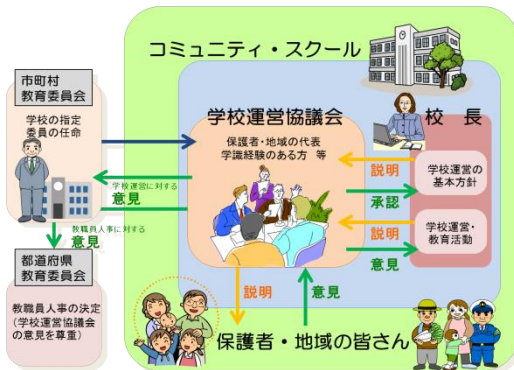
コミュニティ・スクールとは何ですか？
学校運営協議会は、これまでの学校評議員と何が違うのですか？

コミュニティ・スクールとは、「学校運営協議会」を設置している学校のことです。学校評議員が校長の求めに応じて個人的に意見を述べるのに対し、学校運営協議会は、合議組織であり、法の規定に基づいて学校運営に関する一定の権限が与えられます。これまで以上に、地域の皆さんの意見を学校運営に反映させる仕組みです。

学校運営協議会の主な役割

(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5)
教育委員会が、学校や地域の実情に応じて学校運営協議会を置く学校を指定

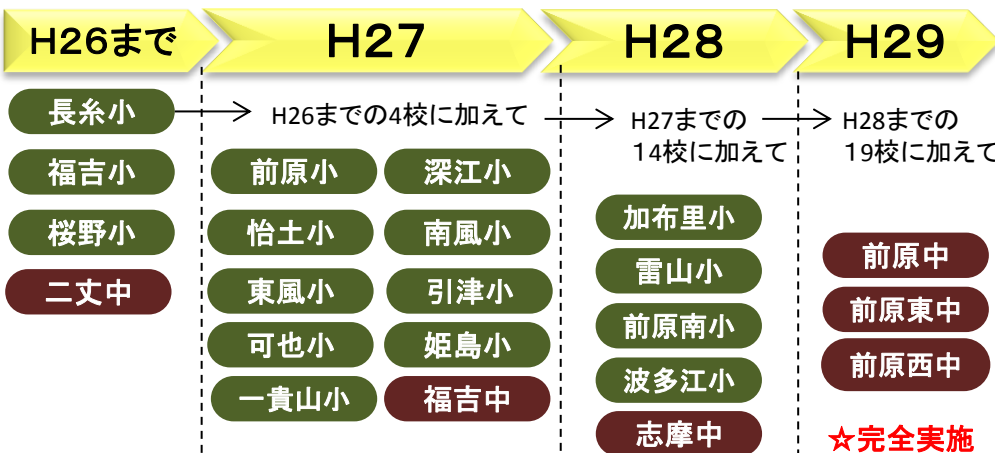
- 校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること
- 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができること
- 教職員の任用に関して、教育委員会に意見を出すことができること



自分が住む校区では来年からコミュニティ・スクールが始まると聞きました。糸島市では、どんな計画で進められているのですか？

Q3

平成26年度までに4校を指定し、先行実施しました。平成27年度は14校で実施し、平成29年度までに市内の全ての小中学校での指定を完了する予定です。



★完全実施

Q4



学校・家庭・地域が連携・協働するとは具体的にどういうことですか？
これまでと何が変わるのですか？

学校・家庭・地域は、本来、それぞれに特有の教育的役割があります。一方で、三者が連携・協働しなければ解決し得ない課題も増えています。連携・協働の姿は、それぞれの役割を果たすことに加えて、お互いに支援したり貢献したりする活動、また、二者あるいは三者で1つのことに取り組む協働といった活動に具体化されます。

糸島市では、これまで地域による学校支援を盛んに頂いてきた実績があります。今後は、学校が地域に貢献したり、子どもを中心として家庭と地域が繋がるような取組を充実させることが望まれます。

子どもを中心とした 連携・協働のイメージ

D 学校・家庭・地域の協働

例) 校区夏祭り
校区運動会
校区運動会 等

B 学校は家庭を支援 家庭は学校を支援 両者による協働

例) 採点ボランティア
放課後寺子屋 等

F 家庭の役割 (しつけ、家庭学習の習慣化等)

E 学校の役割 (学習指導、生徒指導等)

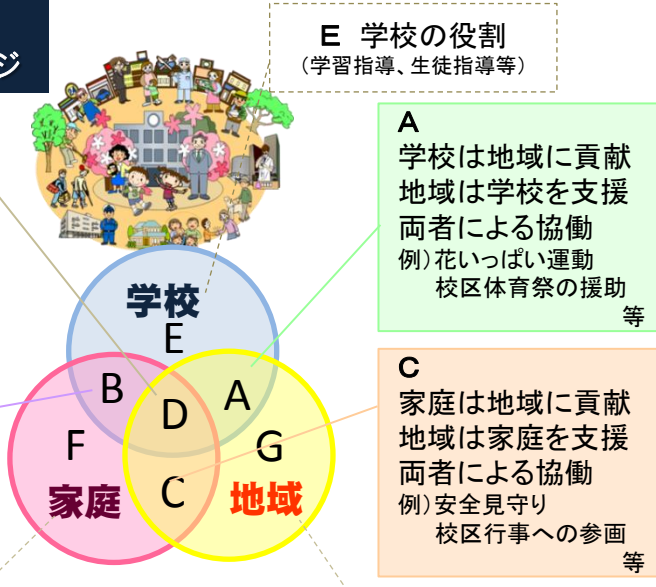
A 学校は地域に貢献 地域は学校を支援 両者による協働

例) 花いっぱい運動
校区体育祭の援助 等

C 家庭は地域に貢献 地域は家庭を支援 両者による協働

例) 安全見守り
校区行事への参画 等

G 地域の役割 (地域づくり、地域振興等)



生涯学習の場としてのコミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールにおいて学校は、地域ボランティアの方々から支援を受けると同時に、ボランティアの方々に対して「生涯学習の検証の場・実践の場」を提供する役割も担っています。ボランティアの方々がかこれまで身につけてこられた叡智や技を發揮できる場を設けることで、その方々にとっての生き甲斐の場や社会貢献の場を提供させて頂いているという認識をもつことが、互恵関係を築く上で大切です。

また、これまで学校では専門的な知識や技をもつゲスト・ティーチャーの協力を求めてきましたが、今後は、それに加えて専門性を必要としないサポート・ティーチャーとして、多くの方が気軽に活躍できる場を提供していくことが求められます。

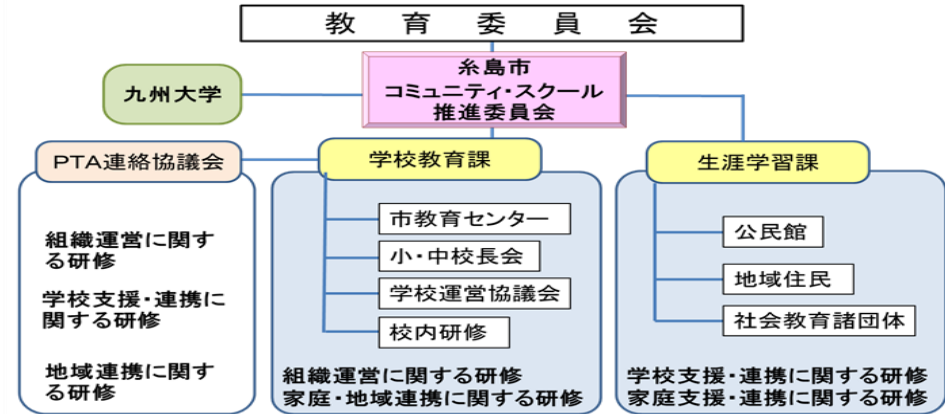
Q5



それぞれの校区で取組を進めるということですが、学校や地域によって取組方や意欲に差が生じませんか？

地域や学校の実状に応じて運営を進めるので、コミュニティ・スクールは各々の地域や学校の特色を反映したものになります。

運営に必要な情報や意欲に差が生じないよう、糸島市では関係者がコミュニティ・スクールについて学ぶ場を下図のように用意しています。



コミュニティ・スクールの実践例

「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」の連携を深める取組

地域コーディネーターを核として中学校区で協働するために

二丈中学校 (生徒数 227名 / 指定日 平成26年4月1日)

※国の「学校・家庭・地域連携協力推進事業(学校を核とした地域力強化プラン)の指定を受け、二丈中学校にある2つの小学校(一貴山小学校・深江小学校)もコミュニティ・スクールに指定され、中学校区単位での取組を進めている。

●コミュニティ・スクールと小中連携

二丈中学校は学校運営協議会と学校支援地域本部を一体化し、地域コーディネーターを核としながら2つの小学校の学校運営協議会と協働し、小中の連携を強めて9カ年で地域の子どもを育てる取組を進めている。

●地域の特色を生かす教育活動の充実

- 二丈の未来を地域の人々と生徒が語り合うワールドカフェの開催
- 二丈の歴史・産業・文化等のフィールド・ワークを生かしたアクティブ・ラーニング
- 二丈の食材や食料生産者を活用した食育の推進

